

今朝は冬に戻ったような冷え込みでしたが、このところ、ようやく日差しに春らしい暖かさが感じられるようになりました。この早春の佳き日に、多数のご来賓並びに保護者の皆さまに、卒業式にご参列いただきありがとうございます。

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。

皆さんは、この逗子開成での中高6年間の様々な経験を通して、逞しく立派な青年に成長したと思います。そして、高校卒業後はそれぞれの道に進むこととなりますが、10年後、20年後に君たちを待ち受けている社会はどのようなものになっていくのでしょうか。

ニューヨーク市立大学大学院センター教授であるキャシー・デビッドソン氏の予測によれば「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」とされています。この予測が当たるかどうかは別として、現代社会の変化は予想以上に速く激しいのは間違いなさそうです。

皆さんが生まれた1997年、1998年頃の出来事を振り返ってみましょう。

国際的な動きでは、1997年7月にイギリスが統治していた香港が中国に返還されました。地球温暖化防止京都会議が開かれ「京都議定書」が採択され、地球温暖化防止の取り組みが国際的に始まりました。

日本に関することでは、消費税が3%から5%に引き上げられ、サッカーワールドカップ初出場が決まり、トヨタのハイブリッド車「プリウス」が発売されました。そして、1998年2月には、長野で冬季オリンピックが開催されました。映画「もののけ姫」が日本アカデミー賞作品賞を受賞し、大ヒットしたのもこの頃です。この映画は皆さんご存知のとおり、本校の元理事長の徳間康快氏が制作総指揮をしています。

科学技術面に目を向けると、この30年ぐらいで大きな変化があります。インターネットが考案され急速に広まりました。CD、DVD、デジタルカメラ、USBメモリー、青色発光ダイオードなど、現在当たり前に使っているものが発明されています。また、1998年にGoogle社が設立され、2004年にハーバード大学の学生であるザッカーバーグとその友

人によってフェイスブックがスタートしています。いまやカセットテープや、ビデオテープを使うことも見ることもほとんどありません。30年前にはWEBデザイナーという仕事は存在しませんでした。

野村総合研究所は、オックスフォード大学との共同研究により、日本国内601種類の職業について、それぞれ人口知能やロボット等で代替される確率を計算しました。その結果、10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、代替可能との推計結果が得られたと発表しています。

この研究によると、芸術、歴史学・考古学、哲学・神学など抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業、他者との協調や、他者の理解、説得、ネゴシエーション、サービス志向性が求められる職業は、人口知能等での代替は難しい傾向があり、一方、必ずしも特別の知識・スキルが求められない職業に加え、データの分析や秩序的・体系的な操作が求められる職業については、人口知能等で代替できる可能性が高い傾向が確認できるとなっています。

そして、人工知能やロボットによって代わられる可能性の高い職業と低い職業がそれぞれ100種あげられています。

代替可能性の高い職業としては、一般事務員、銀行窓口係、行政事務員、自動車組立工、測量士、宅配便配達員などがあり、可能性の低い職業としては、アートディレクター、映画監督、作曲家、医師、小中大学、幼稚園教員（これにはなぜが高校教員は入っていません）、舞台演出家、料理研究家などがあります。詳しく知りたい人は野村総研のHPで調べてみてください。

つまり、人工知能やロボットは膨大で詳細なデータや具体的な指示を与えると、正確にミスなく仕事をすることができますが、創造的な仕事には向いていないということになります。人間は、大雑把で抽象的な要求であったとしても、自分自身がつまづき常識や経験で判断し行動することができます。誰かの指示やマニュアルがないと行動できないようでは、仕事はなくなるでしょう。例えば、「人に迷惑をかけるな。」と言われたとき、人間はそれまでの経験や自分自身の判断で行動し相手の反応を見ながら対応できますが、ロボットの場合は、どのような行動が迷惑になるのか、あらゆる事例をデータとして与えなければなりません。

皆さん、デビッドソン氏と野村総合研究所の予測を聞いてどう感じたでしょうか。予測ですから本当にそうなるかは分かりません。しかし、この10年から20年という短い期間で、沢山の仕事がなくなり、新しい仕事生まれるのは確実なようです。既存の仕事がど

んどんなくなり失業者が増えると考えなのか、人間がする労働時間が減りより創造的な仕事ができる、今は存在しない仕事ができる面白い時代が来ると捉えるのか、それは君たち次第です。

それでは、このような時代を乗り切っていくにはどうしたらいいのでしょうか。

まずは「勉強し続ける」ことです。身につけた知識やスキルがいつまでも役に立つとは限りません。社会に出ても学び続ける姿勢が必要です。次に「問題発見そして解決能力」です。誰かに指示をされないと行動できないようでは話になりません。どのような状況でも何とか対応し道を切り開いていく力が必要です。この力はじっとして身につくものではありません。これから数多くの難題に挑戦し、失敗や成功を繰り返すことによって鍛えられるものでしょう。そして、「協調性、共同性」が求められます。将来仕事をするとときに、大きなプロジェクトになればなるほどそれに関わる人が増え、異なる専門性、バックグラウンドの違い、国籍の違いなどを超えて共同作業をしていく必要があります。お互いを認め合いそれぞれの良さを活かしていくことが大切です。

これから先君たちは様々な困難に出会うでしょう。そんなときにリスクを負ってでも突き進む「勇気」が必要になるかもしれません。これは何の根拠もない「蛮勇」であっては いけません。その日のために今述べたような力を蓄えておいてください。どのような場面でも動じないような「知恵」と「勇気」を持って欲しいものです。これこそ人口知能やロボットにはできないことです。

皆さんが高校に入学した 2013 年は本校の創立 110 周年の年でした。このときの標語を覚えているでしょうか。「未来の海に船を出せ！」でしたね。まさしくその時がやって来ました。待ち受ける困難に挫けることなく、それぞれが自分の目標に向かって力強く船を進めてください。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご子息のご卒業、本当におめでとうございます。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。

それでは、269 名の卒業生の皆さん一人一人の旅立ちを祝うとともに、これからの活躍を祈り式辞と致します。

卒業おめでとう。